

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成25年11月8日
【四半期会計期間】	第55期第2四半期(自平成25年7月1日至平成25年9月30日)
【会社名】	焼津水産化学工業株式会社
【英訳名】	YAIZU SUISANKAGAKU INDUSTRY CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山本 和広
【本店の所在の場所】	静岡県焼津市小川新町5丁目8番13号 (同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記で行っております。)
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	静岡県静岡市駿河区南町11番1号 静銀・中京銀静岡駅南ビル6階
【電話番号】	054(202)6044
【事務連絡者氏名】	経営統括本部 経理部長 大勝 利昭
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第54期 第2四半期 連結累計期間	第55期 第2四半期 連結累計期間	第54期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(千円)	10,200,966	10,173,822	20,813,228
経常利益(千円)	601,555	615,414	1,456,222
四半期(当期)純利益(千円)	345,556	375,970	886,681
四半期包括利益又は包括利益(千円)	273,457	689,113	1,148,829
純資産額(千円)	17,938,412	18,704,224	18,190,170
総資産額(千円)	21,341,880	21,886,311	21,626,767
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	24.59	27.95	63.52
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	84.1	85.5	84.1
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	260,600	670,490	1,386,053
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,282,836	635,674	1,408,831
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	273,058	184,584	908,176
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	1,985,050	2,239,052	2,379,597

回次	第54期 第2四半期 連結会計期間	第55期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額(円)	6.87	9.66

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、セグメントに係る主要な関係会社の異動は次のとおりであります。

(調味料、機能食品およびその他)

連結子会社であったオーケー食品株式会社は平成25年7月8日付けで清算が終了したため、連結の範囲から除外しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）のわが国経済を取り巻く環境は、安倍政権の経済政策アベノミクスによる円高是正や株価上昇、雇用情勢の改善などを背景として、個人消費の持ち直しやデフレ状況の緩和も加わり、景気は緩やかに回復しつつあります。

このような中、当社グループでは、新中期経営計画「Change & Challenge」の初年度にあたり、自らが“変化”し、新しいことに“挑戦”していく企業風土を醸成しながら、更なる企業価値向上と持続的な成長の実現に向けた取り組みを進めております。

具体的には、4つの柱（ . 既存事業の深化、 . 新商品・サービス開発、 . 新規顧客開拓、 . 新事業領域開拓）へ経営資源を集中投入すべく、販売及び開発の体制を見直し、既存事業を強化しつつ新規開拓専任の部署を設けて新たな分野への仕掛けを積極的に行いました。また、製造面では、8月29日に掛川市で新工場の起工式を行い、BCP対策を着実に進めるとともに、事業拡大に向けた生産性及び品質の向上に取り組んでいます。これらの施策を確実に成果に結び付けるため、各部署で数値目標を設定し、その進捗管理を実施することで計画の達成に努めました。

連結売上高につきましては、医療栄養食におけるOEM生産の減少が響き、101億73百万円（前年同四半期比27百万円、0.3%減）となりましたが、主力の調味料事業及び水産物事業では増収となりました。利益面につきましては、売上減少に伴い連結営業利益は5億59百万円（同41百万円、7.0%減）となりましたが、連結経常利益は前期に計上した匿名組合投資損失等がなくなり6億15百万円（同13百万円、2.3%増）、連結四半期純利益は3億75百万円（同30百万円、8.8%増）となりました。

セグメント別の業績は以下の通りです。なお、当連結会計年度より、従来「その他」に含めていた「各種わさび類他香辛料」について報告セグメント区分の「調味料」に含めた記載に変更し、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

（調味料）

調味料は、主に加工食品メーカー向けの液体調味料や粉体調味料の製造販売及び各種わさび類他香辛料の製造販売です。売上高は前年を上回り、42億63百万円（前年同期比13百万円、0.3%増）、セグメント利益（営業利益）は6億4百万円（同51百万円、9.3%増）となりました。

（機能食品）

機能食品は、機能性食品素材及び機能食品の製造販売及び医療栄養食のOEM製造販売ですが、医療栄養食のOEM製造販売が3億22百万円減少した影響で、売上高は31億86百万円（同3億51百万円、9.9%減）、セグメント利益（営業利益）は3億33百万円（同28百万円、8.0%減）となりました。

（水産物）

水産物は、主に冷凍鮪・冷凍鯉の原料販売並びに加工製品の製造販売です。鮪の販売が輸出向けを中心に好調に推移し、問屋船の入港も堅調だったことから、売上高は21億24百万円（同3億85百万円、22.2%増）となりました。セグメント利益（営業利益）は、前期から続く原料高の影響はあったものの、販管費の節減等で30百万円（同9百万円、43.2%増）となりました。

(その他)

その他は、その他商品の販売ですが、売上高は5億99百万円(同74百万円、11.1%減)、セグメント利益(営業利益)は9百万円(同22百万円、71.0%減)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産の総額は、前連結会計年度末に比べ2億59百万円増加し、218億86百万円となりました。

流動資産は、商品及び製品が71百万円、原材料及び貯蔵品が3億66百万円増加した一方、現金及び預金が1億59百万円、受取手形及び売掛金が5億63百万円減少したことにより3億36百万円減少し、108億92百万円となりました。

固定資産は、新工場の建設に伴い建設仮勘定が4億63百万円増加するとともに、投資有価証券が株価の上昇等により3億5百万円増加したことなどにより5億95百万円増加し、109億93百万円となりました。

流動負債は、賞与引当金が63百万円増加する一方、支払手形及び買掛金が1億34百万円、未払法人税等が90百万円減少したことなどにより3億33百万円減少し、27億66百万円となりました。

固定負債は、繰延税金負債が1億31百万円増加したことなどにより78百万円増加し、4億15百万円となりました。

純資産は利益剰余金が2億1百万円、その他有価証券評価差額金が2億42百万円増加したことなどにより5億14百万円増加し、187億4百万円となりました。

この結果、自己資本比率は85.5%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は22億39百万円となり、前連結会計年度末比1億40百万円減少しました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果、増加した資金は6億70百万円(前年同期比4億9百万円増)となりました。この内訳の主なものは、税金等調整前四半期純利益6億11百万円、減価償却費3億10百万円、売上債権の減少5億71百万円などの増加要因に対し、たな卸資産の増加4億28百万円、法人税等の支払い3億24百万円、仕入債務の減少1億34百万円などの減少要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果、減少した資金は6億35百万円(前年同期比6億47百万円増)となりました。この内訳の主なものは、新工場の建設資金の支払いなどにより有形固定資産の取得による支出が7億19百万円となったことなどによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果、減少した資金は1億84百万円(前年同期比88百万円増)となりました。この内訳の主なものは、配当金の支払額1億74百万円などによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

(対処すべき課題)

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配するものの在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりであります。

(株式会社の支配に関する基本方針について)

基本方針の内容

当社は、当社の支配権の移転を伴うような大規模買付行為（下記 ロaに定義されます。以下同じとします。）について、それに応じるか否かは、最終的には株主の皆様判断を委ねるべきものであると考えております。したがって、大規模買付行為があった場合にも、それが当社の企業価値の向上又は株主の皆様共同の利益に資するものであれば、何らその行為を否定するものではありません。

しかしながら、当社株式の大規模買付行為の中には、当社が長年に亘り培った企業価値の源泉を理解することなく、当社の企業価値又は株主の皆様共同の利益を毀損するおそれがあるものも想定されます。当社といたしましては、当社の企業価値又は株主の皆様共同の利益の確保・向上の観点に照らし、このような大規模買付行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適切ではないと考えています。そこで、当社は、特定の者又はグループが当社の議決権の20%以上の議決権を有する株式を取得することで、当社の企業価値又は株主の皆様共同の利益が毀損されるおそれが存する場合には、かかる特定の者又はグループは、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であるとして、法令等及び定款によって許容される限度において当社の企業価値又は株主の皆様共同の利益の確保・向上のための相当な措置を講じることを基本方針といたします。

基本方針の実現に資する取組み

当社は、基本方針の実現に資する取組みとして以下の施策を実施し、当社グループの企業価値・株主の皆様共同の利益の確保・向上に努めております。

イ．3カ年中期経営計画「Change & Challenge」

当社グループは、平成25年度から平成27年度までの3カ年中期経営計画「Change & Challenge」を策定し、新たな価値を創造し続けるグローバルな企業を目指し、新計画では“成長への再挑戦”と位置付け、4つの柱（（ ）既存事業の深化、（ ）新商品（サービス）開発、（ ）新規顧客開拓、（ ）新事業領域開拓）に経営資源（ヒト・金・物）を集中投入し成長戦略を描いていくことを基本方針とし、これらに基づく以下の4つの重点施策を着実に進展させることで、当社グループの企業価値または株主の皆様共同の利益の確保・向上に努めています。

(a) 既存コア事業の深耕、BCP対応

事業構造改革により筋肉質になった収益構造を維持すると共に、当社の主力とする調味料事業及び機能食品事業を更に深耕します。また、平成24年6月に静岡県の内陸部に取得した工場用地に平成26年度中の稼働を目指して新工場の建設を行い、生産効率向上と事業継続計画（BCP）を着実に進めていきます。

(b) グローバル展開と新たな海外拠点（東南アジア）の設置

当社は、成長著しい中国への足掛かりとして平成16年に100%出資子会社「大連味思開生物技術有限公司」を設立し、海外展開を進めてきました。グローバル展開の第2弾として、今後成長が見込まれる東南アジアのマーケットを視野に入れ、ASEAN地域に海外拠点の設立を目指します。

(c) 新事業への挑戦

新たな成長エンジンの確立のため、当社グループの得意とする「おいしさと健康」のカテゴリーに加え、その周辺領域である農業分野、環境分野、化粧品分野などへの事業拡大に挑戦します。

(d) グループ経営基盤の強化

グループ経営基盤の強化を目指し、子会社の事業構造改革を進めるとともに、本体・子会社とも経営指標を生かした管理を行い、全体最適の観点から収益力の向上と相乗効果の創出を図ります。

ロ．コーポレートガバナンスの強化

当社グループは、ステークホルダーから一層の期待と信頼を獲得するために、健全で透明性の高い経営を目指し、コーポレートガバナンスの強化を経営上の最も重要な課題の一つとして位置付けています。

当社の取締役会は社外取締役1名を含む取締役9名で構成され、法令等で定められた事項及び経営上の重要事項を審議・決定しています。監査役会は社外監査役2名を含む3名で構成され、監査役は取締役会やその他重要な会議への出席、業務及び財産の状況調査等を通じて、取締役の業務執行を監査しています。また、当社は、社外取締役1名および社外監査役2名のうち1名について、一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外役員であると判断し、当社が上場する金融商品取引所に対し、独立役員として届け出ております。かかる独立役員については、取締役会等における業務執行に係る決定の局面等において、一般株主の利益への配慮がなされるよう、必要な意見を述べる等、一般株主の利益保護のための行動をとることが期待されます。

こうした経営体制のもとで、会社法及び金融商品取引法に準拠した内部統制システムの構築、リスクマネジメント・コンプライアンス関連の各種委員会を設置・運営することで具体的な施策を推進しています。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するため、平成24年5月11日開催の当社取締役会において、「当社株式の大規模買付行為に関する対応方針(買収防衛策)」(以下「本プラン」といいます。)を継続することを決議し、平成24年6月28日開催の当社第53期定時株主総会において、株主の皆様のご承認をいただいております。本プランの概要は、以下のとおりです。

イ. 本プランの目的

当社は、買収者等に対して、場合によっては何らかの措置を講ずる必要が生じ得るものと考えますが、上場会社である以上、買収者等に対して株式を売却するか否かの判断や、買収者等に対して会社の経営を委ねることの是非に関する最終的な判断は、基本的には、個々の株主の皆様のご意思に委ねられるべきものだと考えております。

しかしながら、株主の皆様に適切な判断を行っていただくためには、その前提として、当社固有の事業特性や当社グループの歴史を十分に踏まえていただいた上で、当社の企業価値とその価値を生み出している源泉につき適切な把握をしていただくことが必要であると考えます。

そして、買収者等による当社の支配株式の取得が当社の企業価値やその価値の源泉に対してどのような影響を及ぼし得るかを把握するためには、買収者等から提供される情報だけでは不十分な場合も容易に想定され、株主の皆様に適切な判断を行っていただくためには、当社固有の事業特性を十分に理解している当社取締役会から提供される情報及び当該買収者等による支配株式の取得行為に対する当社取締役会の評価・意見や、場合によっては当社取締役会によるそれを受けた新たな提案を踏まえていただくことが必要であると考えます。

したがって、当社といたしましては、株主の皆様に対して、これらの多角的な情報を分析し、検討していただくための十分な時間を確保することが非常に重要であると考えております。

以上の見地から、当社は、上記の基本方針を踏まえ、大規模買付行為を行おうとし、又は現に行っている者(以下「大規模買付者」といいます。)に対して事前に大規模買付行為に関する必要な情報の提供及び考慮・交渉のための期間の確保を求めることによって、当該大規模買付行為に応じるべきか否かを株主の皆様が適切に判断されること、当社取締役会が、特別委員会(下記ロeに定義されます。以下同じとします。)の勧告を受けて当該大規模買付行為に対する賛否の意見又は当該大規模買付者が提示する買収提案や事業計画等に代替する事業計画等を株主の皆様に対して提示すること、あるいは、株主の皆様のために大規模買付者と交渉を行うこと等を可能とし、もって基本方針に照らして不適切な者(具体的には、当社取締役会が所定の手続に従って定める一定の大規模買付者並びにその共同保有者及び特別関係者並びにこれらの者が実質的に支配し、これらの者と共同ないし協調して行動する者として当社取締役会が認めた者等をいいます。)によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの一つとして、平成24年5月11日開催の取締役会において、本プランによる買収防衛策の継続を決定し、平成24年6月28日開催の第53期定時株主総会にて、株主の皆様よりご承認いただきました。

ロ．本プランの内容について

a．対抗措置発動の対象となる大規模買付行為の定義

次の(a)乃至(c)のいずれかに該当する行為（ただし、当社取締役会が予め承認をした行為を除きます。）又はその可能性のある行為（以下「大規模買付行為」と総称します。）がなされ、又はなされようとする場合に、本プランに基づく対抗措置が発動される場合があります。

- (a) 当社が発行者である株券等に関する当社の特定の株主の株券等保有割合が20%以上となる当該株券等の買付けその他の取得
- (b) 当社が発行者である株券等に関する当社の特定の株主の株券等所有割合とその特別関係者の株券等所有割合との合計が20%以上となる当該株券等の買付けその他の取得
- (c) 上記(a)又は(b)に規定される各行為の実施の有無にかかわらず、当社の特定の株主が、当社の他の株主（複数の場合を含みます。以下本(c)において同じとします。）（ただし、当社が発行者である株券等につき当該特定の株主と当該他の株主の株券等保有割合の合計が20%以上となるような当該他の株主に限りません。）との間で、当該他の株主が当該特定の株主の共同保有者に該当するに至るような合意その他の行為、又は当該特定の株主と当該他の株主との間にその一方が他方を実質的に支配し若しくはそれらの者が共同ないし協調して行動する関係を樹立する行為

b．意向表明書の提出

大規模買付者には、大規模買付行為の開始又は実行に先立ち、別途当社の定める書式により、本プランに定める手続（以下「大規模買付ルール」といいます。）を遵守することを当社取締役会に対して誓約する旨の大規模買付者代表者による署名又は記名捺印のなされた書面及び当該署名又は記名捺印を行った代表者の資格証明書（以下、これらを併せて「意向表明書」といいます。）を当社代表取締役社長宛てに提出していただきます。

c．大規模買付者に対する情報提供要求

当社取締役会及び特別委員会が意向表明書を受領した日から5営業日以内に、大規模買付者には、当社取締役会に対して、大規模買付情報を提供していただきます。当社取締役会又は特別委員会が大規模買付情報の提供が完了したと判断した場合には、当社は、適用ある法令等及び金融商品取引所規則に従って直ちにその旨を株主の皆様に対して開示します。

d．取締役会評価期間の設定等

当社取締役会は、対価を現金（円貨）のみとする公開買付けによる当社の全ての株券等の買付けが行われる場合には最長60日間、それ以外の場合には最長90日間を、当社取締役会による評価、検討、意見形成、代替案立案及び大規模買付者との交渉のための期間として設定します。大規模買付行為は、本プランに別段の記載なき限り、取締役会評価期間の経過後にのみ開始されるべきものとします。

e．特別委員会の設置

当社は、本プランによる買収防衛策の継続に当たり、その発動等に関する当社取締役会の恣意的判断を排するため、当社の業務執行を行う経営陣から独立している、社外取締役及び社外監査役並びに社外有識者の3名以上から構成される特別委員会（以下「特別委員会」といいます。）を設置します。

f．特別委員会の勧告手続及び当社取締役会による決議

大規模買付者が大規模買付ルールにつきその重要な点において違反した場合で、当社取締役会がその是正を書面により当該大規模買付者に対して要求した後5営業日以内に当該違反が是正されない場合には、特別委員会は、当社の企業価値又は株主の皆様共同の利益の確保・向上のために対抗措置を発動させないことが必要であることが明白であることその他の特段の事情がある場合を除き、原則として、当社取締役会に対して、大規模買付行為に対する対抗措置の発動を勧告します。

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合、特別委員会は、原則として、当社取締役会に対して、大規模買付行為に対する対抗措置の不発動を勧告します。もっとも、大規模買付ルールが遵守されている場合であっても、特別委員会は、当該大規模買付者がいわゆるグリーンメイラーである等一定の事情を有していると認められる者であり、かつ、かかる大規模買付行為に対する対抗措置の発動が相当であると判断する場合には、当社取締役会に対して、かかる大規模買付行為に対する対抗措置の発動を勧告します。

当社取締役会は、特別委員会の勧告を最大限尊重した上で対抗措置の発動、不発動又は中止その他必要な決議を行うものとします。なお、特別委員会から対抗措置不発動の決議をすべき旨の勧告がなされた場合であっても、当社取締役会は、かかる特別委員会の勧告を最大限尊重し、当該勧告に従うことにより取締役の善管注意義務に違反するおそれがある等の事情があると認める場合には、対抗措置を発動するか否かを株主の皆様にご質問いただく当社株主総会を招集することができるものとします。

g．対抗措置の具体的内容

当社が本プランに基づき発動する大規模買付行為に対する対抗措置は、原則として、会社法第277条以下に規定される新株予約権の無償割当てによるものとします。ただし、会社法その他の法令等及び当社定款上認められるその他の対抗措置を発動することが適切と判断された場合には、当該その他の対抗措置が用いられることもあり得るものとします。

ハ．本プランの有効期間並び継続について

本プランの有効期間は、当社第53期定時株主総会において本プランによる買収防衛策継続に関する承認議案が承認可決された時点から当該定時株主総会終了後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会後最初に開催される取締役会の終結時までとします。ただし、当該取締役会終結時において、現に大規模買付行為を行っている者又は当該行為を企図する者であって特別委員会において定める者が存在する場合には、当該行われている又は企図されている行為への対応のために必要な限度で、かかる有効期間は延長されるものとします。

また、かかる有効期間の満了前であっても、(i)当社株主総会において本プランを廃止する旨の議案が承認された場合、又は(ii)当社取締役会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合、本プランはその時点で廃止されるものとします。よって、本プランは、株主の皆様のご意向に従い、随時これを廃止させることが可能です。

上記 の取組みについての取締役会の判断及び理由

当社取締役会は、本プランは、当社グループの企業価値または株主の皆様共同の利益の確保・向上をその目的とするものであり、基本方針に沿うものと考えます。

また、本プランは、(i)株主、投資家の皆様及び大規模買付者の予見可能性を高めるため、事前の開示がなされていること、(ii)本プランの存続が株主の皆様ご意思に係らしめられていること、及び(iii)経営者の保身のために本プランが濫用されることを防止するために、特別委員会を設置し、当社取締役会が対抗措置の発動の是非を判断する場合には、特別委員会の勧告を最大限尊重するものとしていること等から、当社取締役会は、本プランは当社の企業価値または株主の皆様共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社の取締役の地位の維持を目的とするものでもないと考えております。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は、75百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年11月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,056,198	14,056,198	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	14,056,198	14,056,198	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	-	14,056,198	-	3,617,642	-	3,414,133

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名または名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
日油(株)	東京都渋谷区恵比寿4丁目20-3	1,504	10.7
(株)静岡銀行	静岡県静岡市葵区呉服町1丁目10	649	4.6
宝ホールディングス(株)	京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20	593	4.2
鈴木 ミツエ	静岡県焼津市	530	3.8
日本マスタートラスト信託銀行 (株)	東京都港区浜松町2丁目11-3	389	2.8
松本 圭一郎	静岡県静岡市葵区	323	2.3
焼津信用金庫	静岡県焼津市栄町3丁目5-14	321	2.3
明王物産(株)	東京都豊島区南池袋1丁目8-1	232	1.7
日本トラスティ・サービス信託 銀行(株)	東京都中央区晴海1丁目8-11	213	1.5
中野 新之助	静岡県焼津市	188	1.3
計	-	4,945	35.2

(注) 1. 上記信託銀行の所有株式のうち、信託業務に関わる株式数は次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行(株) 389千株

日本トラスティ・サービス信託銀行(株) 213千株

2. 上記のほか当社所有の自己株式606千株(4.3%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 606,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,432,400	134,324	1単元の株式数 100株
単元未満株式	普通株式 17,798	-	-
発行済株式総数	14,056,198	-	-
総株主の議決権	-	134,324	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株(議決権の数1個)含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 または名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
焼津水産化学工業 株式会社	静岡県焼津市小 川新町5丁目8 番13号	606,000	-	606,000	4.3
計	-	606,000	-	606,000	4.3

(注) 当社は、平成25年11月1日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される

同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項を決議し、実施いたしました。

詳細につきましては、第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表(重要な後発事象)に記載のとおりです。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役員の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	営業副本部長 兼 営業1部長	取締役	-	又平 芳春	平成25年8月2日

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、芙蓉監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,118,530	2,958,833
受取手形及び売掛金	4,814,110	4,250,620
商品及び製品	1,339,387	1,410,771
原材料及び貯蔵品	1,709,522	2,075,801
繰延税金資産	148,956	161,895
その他	106,496	41,807
貸倒引当金	8,200	6,980
流動資産合計	11,228,802	10,892,750
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,420,677	2,398,347
機械装置及び運搬具(純額)	1,266,325	1,223,257
土地	3,419,907	3,433,380
リース資産(純額)	58,597	49,490
建設仮勘定	124,600	588,010
その他(純額)	65,290	63,510
有形固定資産合計	7,355,398	7,755,996
無形固定資産	170,305	153,180
投資その他の資産		
投資有価証券	2,585,426	2,890,566
繰延税金資産	5,486	5,486
その他	293,987	196,952
貸倒引当金	12,639	8,621
投資その他の資産合計	2,872,260	3,084,384
固定資産合計	10,397,964	10,993,561
資産合計	21,626,767	21,886,311

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,904,313	1,770,021
リース債務	18,767	19,748
未払法人税等	343,899	253,132
未払消費税等	38,209	22,578
賞与引当金	115,854	179,764
役員賞与引当金	-	10,000
その他	679,033	511,514
流動負債合計	3,100,076	2,766,760
固定負債		
リース債務	47,254	35,780
繰延税金負債	66,064	197,666
退職給付引当金	199,299	157,979
長期未払金	13,434	13,434
その他	10,465	10,465
固定負債合計	336,520	415,327
負債合計	3,436,596	3,182,087
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,617,642	3,617,642
資本剰余金	3,414,133	3,414,133
利益剰余金	11,363,862	11,564,978
自己株式	489,245	489,450
株主資本合計	17,906,393	18,107,303
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	298,459	540,790
為替換算調整勘定	14,682	56,129
その他の包括利益累計額合計	283,777	596,920
純資産合計	18,190,170	18,704,224
負債純資産合計	21,626,767	21,886,311

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	10,200,966	10,173,822
売上原価	7,853,134	7,909,945
売上総利益	2,347,831	2,263,876
販売費及び一般管理費	¹ 1,746,673	¹ 1,704,599
営業利益	601,157	559,277
営業外収益		
受取利息	1,233	3,004
受取配当金	27,176	30,618
受取賃貸料	8,308	7,991
為替差益	-	21,278
その他	39,747	23,029
営業外収益合計	76,465	85,921
営業外費用		
支払利息	89	56
匿名組合投資損失	31,691	-
為替差損	9,989	-
たな卸資産廃棄損	12,986	7,524
保険解約損	11,689	16,157
その他	9,621	6,046
営業外費用合計	76,067	29,784
経常利益	601,555	615,414
特別利益		
固定資産売却益	6	-
投資有価証券売却益	-	7,825
保険収益	4,865	-
国庫補助金	6,260	-
特別利益合計	11,131	7,825
特別損失		
固定資産除却損	3,196	11,815
災害による損失	3,408	-
固定資産圧縮損	6,118	-
賃貸借契約解約損	34,564	-
特別損失合計	47,287	11,815
税金等調整前四半期純利益	565,399	611,424
法人税等	219,842	235,454
少数株主損益調整前四半期純利益	345,556	375,970
四半期純利益	345,556	375,970

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	345,556	375,970
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	73,709	242,330
為替換算調整勘定	1,610	70,812
その他の包括利益合計	72,098	313,143
四半期包括利益	273,457	689,113
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	273,457	689,113
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	565,399	611,424
減価償却費	318,937	310,323
のれん償却額	-	637
退職給付引当金の増減額(は減少)	19,924	41,320
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,900	5,238
賞与引当金の増減額(は減少)	57,663	63,910
役員賞与引当金の増減額(は減少)	9,000	10,000
受取利息及び受取配当金	28,410	33,622
支払利息	89	56
為替差損益(は益)	2,483	2,610
有形固定資産除却損	3,196	11,815
有形固定資産売却損益(は益)	6	-
匿名組合投資損益(は益)	31,691	-
投資有価証券売却損益(は益)	-	7,825
賃貸借契約解約損	34,564	-
売上債権の増減額(は増加)	108,099	571,899
たな卸資産の増減額(は増加)	324,203	428,623
その他の流動資産の増減額(は増加)	56,520	47,487
その他の固定資産の増減額(は増加)	58,017	96,461
仕入債務の増減額(は減少)	6,465	134,613
未払消費税等の増減額(は減少)	62,951	20,462
長期未払金の増減額(は減少)	18,561	-
その他の流動負債の増減額(は減少)	29,903	91,874
その他	3,367	19,740
小計	558,236	943,304
利息及び配当金の受取額	28,410	33,628
利息の支払額	89	56
法人税等の支払額	327,367	324,381
法人税等の還付額	1,411	17,995
営業活動によるキャッシュ・フロー	260,600	670,490
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	651,932	644,781
定期預金の払戻による収入	668,345	663,932
有価証券の取得による支出	28	-
有価証券の償還による収入	28,228	-
有形固定資産の取得による支出	1,296,103	719,211
有形固定資産の売却による収入	15	-
無形固定資産の取得による支出	28,709	12,511
投資有価証券の取得による支出	2,651	2,696
投資有価証券の売却による収入	-	79,314
その他	-	279
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,282,836	635,674

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	25,817	-
長期借入金の返済による支出	70,000	-
自己株式の取得による支出	37	205
配当金の支払額	168,310	174,386
リース債務の返済による支出	8,892	9,992
財務活動によるキャッシュ・フロー	273,058	184,584
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,951	9,224
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,297,245	140,545
現金及び現金同等物の期首残高	3,282,296	2,379,597
現金及び現金同等物の四半期末残高	¹ 1,985,050	¹ 2,239,052

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	
連結の範囲の重要な変更	連結子会社でありましたオーケー食品株式会社は、平成25年7月8日付けで清算終了したため、当第2四半期連結会計期間より連結の範囲より除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	
1. 税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
従業員給与手当	292,539千円	従業員給与手当	232,305千円
賞与引当金繰入額	72,706	賞与引当金繰入額	69,853
役員賞与引当金繰入額	9,000	役員賞与引当金繰入額	10,000
貸倒引当金繰入額	2,900	貸倒引当金繰入額	-
減価償却費	57,651	減価償却費	63,125

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	2,799,983千円		2,958,833千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	814,932千円		719,781千円
現金及び現金同等物	<u>1,985,050千円</u>		<u>2,239,052千円</u>

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

配当に関する事項

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	168,607	12	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月2日 取締役会	普通株式	140,505	10	平成24年9月30日	平成24年12月4日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

配当に関する事項

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	174,855	13	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月1日 取締役会	普通株式	134,501	10	平成25年9月30日	平成25年12月3日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	調味料	機能食品	水産物	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	4,249,909	3,538,077	1,738,901	9,526,889	674,076	10,200,966	-	10,200,966
(2) セグメント間の内部売上高または振替高	-	3,590	3,616	7,206	13,199	20,406	(20,406)	-
計	4,249,909	3,541,667	1,742,518	9,534,096	687,276	10,221,372	(20,406)	10,200,966
セグメント利益	552,924	362,287	21,329	936,541	31,623	968,165	(367,007)	601,157

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その他商品であります。

2. セグメント利益の調整額367,007千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の総務、経理部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	調味料	機能食品	水産物	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	4,263,074	3,186,606	2,124,675	9,574,356	599,465	10,173,822	-	10,173,822
(2) セグメント間の内部売上高または振替高	-	-	4,480	4,480	-	4,480	(4,480)	-
計	4,263,074	3,186,606	2,129,156	9,578,837	599,465	10,178,302	(4,480)	10,173,822
セグメント利益	604,274	333,412	30,542	968,230	9,157	977,387	(418,109)	559,277

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その他商品であります。

2. セグメント利益の調整額418,109千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の総務、経理部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当連結会計年度より、従来「その他」に含まれていた「各種わさび類他香辛料」について報告セグメント区分の「調味料」に含めて記載することに変更しております。これは、当社グループのオーケー食品株式会社が平成25年3月31日付けで当社に事業譲渡を行い、同日付けで解散したことにより、当社において「調味料」と「各種わさび類他香辛料」とを一体として業績を評価することとしたためです。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分方法により作成しており、前第2四半期連結累計期間の「報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報」に記載しております。

変更後の各報告セグメントの主要な製品及びサービスは次のとおりであります。

(報告セグメント)

調味料	各種エキス、各種オイル、各種スープ、各種粉末調味料、風味調味料、各種具材・惣菜、各種低塩調味料、調味料類受託加工、各種わさび類他香辛料
機能食品	各種海洋機能性素材、キチン・キトサン・オリゴ糖類、医療栄養食を含む各種機能食品、各種機能食品受託加工
水産物	冷凍マグロ・カツオ加工、水産物問屋業、倉庫業

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額(円)	24.59	27.95
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	345,556	375,970
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	345,556	375,970
期中平均株式数(千株)	14,050	13,450

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当社は平成25年11月1日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議いたしました。

自己株式取得に関する取締役会の決議内容

1. 自己株式の取得を行う理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため。

2. 取得の内容

取得する株式の種類

当社普通株式

取得する株式の総数

324,000株(上限)

取得価額の総額

275,400,000円(上限)

取得の方法

東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToS T NeT - 3)による買付け

取得日

平成25年11月5日

3. その他

上記の結果、当社普通株式324,000株(取得価額275,400,000円)を取得いたしました。

2 【その他】

平成25年11月1日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 中間配当による配当金の総額 134,501千円
(ロ) 1株当たりの金額 10円
(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成25年12月3日
(注) 平成25年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月6日

焼津水産化学工業株式会社
取締役会 御中

芙蓉監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 畔村 勇次 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 信行 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている焼津水産化学工業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、焼津水産化学工業株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。